

## 第9回 陽林会 研修

坂東三十三ヶ所観音巡拝 第2回 平成28年10月25日～27日

文責 岩水龍峰 (2016/10/30)

平成28年10月25日(火) 林陽寺駐車場を7時30分に出発、名古屋組は上社駅からの乗車。東海北陸、名神、東名、第二東名、海老名から圏央道、関越自動車道を経由、東松山インターから9番慈光寺着は2時半頃。7時間の乗車。坂東は遠いですね。今回は、17名の参加であった。

第2回のコースは、次のようであった。



25日 各地出発 9番 慈光寺、10番 正法寺、11番 安楽寺 (熊谷泊)

26日 7時30分発 17番 満願寺、19番 大谷寺、18番 中禅寺 (鬼怒川温泉川泊)

27日 7時30分発 16番 水澤寺、15番 長谷寺

11時30分発 関越、上信越、長野、中央、名神、東海北陸  
岐阜駅 林陽寺 20時頃

坂東三十三箇所(ばんどうさんじゅうさんかしょ)とは、神奈川県・埼玉県・東京都・群馬県・栃木県・茨城県・千葉県にかけてある33か所の観音霊場のこと。源頼朝によって発願され、源実朝が西国の霊場を模範として札所を制定したと伝えられている。第一番札所の杉本寺から第三十三番札所である那古寺までを巡拝すると、その道程は約1300キロメートルにもなる大変広範囲に設けられた巡礼地でもあり同時に、岐阜から出かければ行くまでに500キロ近く走ることとなり、四国と同様遠い巡礼地である。

第9番 慈光寺	天台宗	埼玉県ときがわ町
 <p data-bbox="357 1951 600 1984">国宝の法華経一品経</p>	<p data-bbox="730 1480 1369 2033">天武天皇の673年、慈光翁が僧慈訓(じきん)に命じて千手観音を刻ませ、本尊として祀ったのが創始となる。慈覚大師が訪れて密教の道場とした。その時植えたのが、本坊前に立つ多羅葉樹(たらようじゅ)である。宝物館に展示されている、国宝の法華経一品経は、文永7(1270)年、後鳥羽天皇、藤原兼実ら32名が書写して奉納したもので、巖島神社の「平家納経」などと並ぶ日本三大装飾経のひとつとされている。秩父山塊の中腹の寺。階段も多い。</p> 	

第10番 正法寺（岩殿観音）	真言宗智山派	埼玉県東松山市
	<p>寺伝によれば養老2年（718年）に、沙門逸海が千手観音像を刻み開山し正法庵と称し、鎌倉時代初期に源頼朝の命で比企能員が復興した。頼朝の妻北条政子の守り本尊だったと伝わっている。天正2年（1574年）に栄俊が中興開山となる。天正19年（1591年）に、徳川家康より寺領二十五石の朱印地を与えられる。なお、県道沿いには大東文化大学東松山キャンパスがあり、境内に大きな銀杏の木がある。</p>	
第11番 安楽寺（岩殿観音）	真言宗智山派	埼玉県比企郡吉見町
	<p>寺伝によれば大同元年（806年）、奈良時代の僧行基が聖観音像を安置したのに始まるとされ、平安時代初期の武将坂上田村麻呂が堂宇を建立したと伝えられる。本尊の吉見観音は毎年6月18日に厄除観音会が催され、御開扉される。その後、源頼朝の弟源範頼が三重塔などを建てたとされるが、兵火により焼失したという。江戸時代前期、杲鏡によって再興された。</p> 	
第17番 満願寺（出流観音）	真言宗智山派	栃木県栃木市出流町
  <p>元禄、明和時代の百観音満願成就の奉納額</p>	<p>寺伝によれば天平神護元年（765年）日光山繁栄の源を作られた勝道上人によって開山されました。弘仁11年（820年）、空海が勝道上人の徳を慕って参詣し、その折りに当山の銘木で千手観世音菩薩を造立したとされる。本堂（大御堂）は、応安元年（1368）、足利義満の寄進によって観音堂として建立されましたが、元文五年（1740）の大火により山門を残すのみで、堂塔はことごとく焼失したそうです。今の大御堂は明和元年（1764）に再建されました。筑波山の大御堂（現在の筑波神社本殿）、奈良の興福寺大御堂と共に日本三御堂の一つだそうです。海老虹梁の龍の見事な彫刻がみものです。</p> 	



<p>第19番 大谷寺 (大谷観音)</p>	<p>天台宗</p>	<p>栃木県宇都宮市大谷町</p>
<div data-bbox="272 309 647 739" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="336 763 587 797" data-label="Caption"> <p>境内のポスターより</p> </div>	<p>大谷寺は、日本屈指の洞窟寺院である。本尊は、凝灰岩の岩壁に彫られた丈六（約4.5メートル）の千手観音（伝 弘仁元年（810年）の空海作）。一般には「大谷観音」。千手観音像と伝薬師三尊像が古く、伝釈迦三尊像がこれに次ぎ、伝阿弥陀三尊像がもっとも遅れての造立といわれ平安時代中期から鎌倉時代にかけて。造立当時は金箔と彩色が施された煌びやかな像であったと推定されている。</p> <div data-bbox="1066 439 1345 739" data-label="Image"> </div>	
<p>第18番 中禅寺 (立木観音)</p>	<p>天台宗</p>	<p>栃木県日光市中禅寺</p>
<div data-bbox="272 965 687 1335" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="252 1391 676 1469" data-label="Caption"> <p>中禅寺本堂より標高2486mの二荒山（男体山）を臨む</p> </div> <div data-bbox="256 1559 695 1912" data-label="Image"> </div>	<p>中禅寺は、延暦三年（784）日光開山「勝道上人」によって建立されたお寺。世界遺産「日光山輪王寺」の別院。本尊「立木観音」は日光山中禅寺の本尊で「十一面千手観世音菩薩」（国重要文化財）。勝道上人が中禅寺湖上に千手観音様をご覧になり、その姿を桂の立木に彫ったと伝えられている。現在も地に根をはり、訪れる人々を穏やかな表情で迎えます。千手観音様の御利益は、「諸願成就」と申しまして、諸々の願い事を成就して下さる仏様。</p> <div data-bbox="932 1182 1370 1509" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="858 1581 1353 1935" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="959 1962 1174 1995" data-label="Caption"> <p>熱心に説明を聞く</p> </div>	

<p>第15番 長谷寺（白岩観音）</p>  	<p>金峯山修験本宗</p>	<p>群馬県高崎市白岩</p>
<p>第16番 水澤寺（水澤観音）</p>    <p>黄仁覧（龍に乗って勤務した仙人）</p>  <p>琴高仙人（800年も生きた仙人）</p>	<p>天台宗</p>	<p>群馬県伊香保町</p>
<p>寺伝では、延暦・大同（782-810）の頃に、最澄や空海が来錫し、文徳天皇（851）の御代、在原業平が堂宇を修営したとのこと。一説によれば文部天皇の御代（683年?）。後に、源義家、新田義貞などの武将が信仰し、天文元年（1532）、上杉憲政が伽藍を整えた。永禄6年（1563）、武田信玄の箕輪城攻めの兵火で焼失、現在の観音堂は信玄の子、勝頼が再建。観音堂の天井画「天人奏楽」が見物。本尊の十一面観音立像は平安時代後期（藤原時代）の作とされ、榿材の一木割刳造（いちぼくわりはぎづくり）目は彫眼で素木仕上げの秘仏。常時拝観できる御前立ちの十一面観音立像は、桧の寄木造、目は玉眼で、全体に金箔が施され、鎌倉時代の作。</p> <p>創建は推古天皇の（593-628）で、五徳山水澤寺の名称は、推古天皇の御宸筆（ごしんぴつ）の額名による。本尊は十一面千手観音で、飛鳥時代上野国の国司高光の開基により創建されたと伝えられる。境内の六角二重塔（輪蔵、りんぞうー仏教の寺院内等に設けられる経蔵の一種。転輪蔵。経蔵の中央に、中心軸に沿って回転させることが可能な八面等に貼り合わせた形の書架を設け、そこに大蔵経を収納した形式のもの（回転式書架）。一般には、この経蔵を回転させると、それだけで經典全巻を読誦したのと同等の御利益が得られるものと信じられている。）に、六地藏と大日如来が安置されている。現在の本堂は、江戸末期、天明7年（1787）の建築。徳川幕府の祈願所。欄間の彫刻には、東照宮と同じような物がある。家康の心意気を彫刻に表したと言われる。</p> 		